

2018年10月26日
株式会社クレディセゾン
株式会社 PKSHA Technology

クレディセゾン クレジットカードの不正使用検知システムに AI を導入 ～ 最新の不正手口に対して「トレンド追従型アルゴリズム」でスピーディに対応 ～

株式会社クレディセゾン(本社:東京都豊島区、代表取締役社長:林野宏、以下:クレディセゾン)は、2018年10月より、株式会社 PKSHA Technology(パークシャテクノロジー、本社:東京都文京区、代表取締役:上野山勝也、以下 PKSHA)が提供する「PREDICO(プレディコ) for Financial Intelligence」をクレジットカードの不正使用検知システムに導入いたしました。

本システムは、PKSHA が保有するアルゴリズムを、株式会社インテリジェント ウェイブ(本社:東京都中央区、代表取締役社長:井関司、以下:IWI)が提供しているクレディセゾンの不正使用検知システムに合わせてカスタマイズし、導入するものです。このアルゴリズムは、常に最新の不正手口を学習し続けることで、その変化にスピーディに対応し、高い精度で不正使用を抑止いたします。

クレディセゾンは、巧妙化する不正手口に対して、不正使用検知システムの精度向上をはかることで、お客様に安心、安全な決済環境を提供するとともに、サービス先端企業として最新テクノロジーを活用したソリューションを用いながら、さらなる利便性の高いサービスを提供し、顧客満足度の向上を目指してまいります。

■ PKSHA Technology が提供する「PREDICO for Financial Intelligence」について

「PREDICO for Financial Intelligence」は、PKSHA が展開する機械学習を用いた予測エンジン「PREDICO」を金融業界向けに特化させたアルゴリズム・モジュールです。様々なユースケース向けにカスタマイズすることで、与信スコアリングや融資判断、生損保の不正請求対策など、金融サービスの進化を幅広く支援いたします。

今回の事例で PKSHA が開発したトレンド追従型アルゴリズムは、日々変化する不正手口に自動的に適応し、従来技術では検知できなかった不正使用を誤検知の割合を高めることなく検知いたします。このアルゴリズム・モジュールにより、お客様の利便性を損ねることなく、高い精度で不正使用を検知することが可能となりました。

今後、PKSHA は IWI と連携し、決済に関わる業界における各種データを活用することで、学習しつづけるアルゴリズムを提供していきます。

PKSHA は、「PREDICO for Financial Intelligence」を通じて、アルゴリズムの力で金融サービス業界の進化に貢献するとともに、様々な社会課題を解決すべく事業展開してまいります。

■ クレディセゾンについて

「サービス先端企業」として常に徹底した顧客志向を貫き、独自性の高い商品・サービスを提供し、「セゾンカード」と「UC カード」の 2 つのブランドからなる約 3,700 万人(グループ含む)の顧客基盤を活かして、多種多様な提携パートナーとともにカード利用シーンを拡大しています。AI 活用においては、PKSHA の技術提供を受け、チャットサービスの提供、コールセンターの業務支援など最新テクノロジーを活用した顧客サービスの向上を推進しております。

■ PKSHA Technology について

「アルゴリズムサプライヤー」として、自社開発した機械学習／深層学習領域のアルゴリズムを用い、既存のソフトウェアや各種ハードウェア端末向けにソリューションを展開しています。伸長している領域としては、自然言語処理技術を用いた自動応答や、画像/動画認識、予測モデルなど多岐に渡ります。アルゴリズムを軸に近未来のデジタル情報社会へ向けて価値を創造すべく、今後も多種多様な企業・サービスとも連携を強め、積極的に事業展開してまいります。

■ 株式会社インテリジェント ウェイブについて

クレジットカード決済システムにおけるオンラインネットワーク基盤のシステム構築を中心に、証券市場向け超高速株価情報システムなど、金融業界向けシステムの開発・構築・保守を手がけ、30 年以上にわたって開発実績とノウハウを蓄積。カードビジネス業界においては、国内大手カード会社を中心に、自社開発の決済ネットワーク接続パッケージ、及びカード不正使用検知パッケージの採用で高いシェアを獲得しております。不正使用検知の分野においては、AI を用いたスコアリング機能の開発など、パッケージの更なる機能強化、不正使用検知業務効率化に向けた機能改善に取り組んでまいります。